



干潟小だより

2月号
R3. 2. 1
児童数：263名



校訓 拓き 輝き 高め合う 干潟っ子
学校教育目標 考える頭 元気な心 強い体



まだまだ寒い日が続いていますが、本年は3日が立春で、暦の上では春が始まる日です。校庭の隅にある水仙もかわいい花が開き、春の訪れを知らせてくれています。

さて、明日2日は節分。例年より1日早い2月2日の節分は、なんと124年ぶりの珍しさだそうです。(明治30年 日清・日露戦争の頃以来)

節分は、各季節の始まりの日(立春・立夏・立秋・立冬)の前日のことで、季節を分けることを意味しています。しかし、江戸時代以降は、特に立春の前日を指すようになりました。立春を含む二十四節気(1年を春夏秋冬の4つの季節に分け、さらにそれぞれを6つに分けたもの)では、太陽と地球の位置関係から天文台が日付を割り出し、毎年公表するのですが、公転する周期が365日ぴったりではないことが影響して、例年同じ日にはならないそうです。節分が3日から1日遅い4日にずれる年(最近では昭和59年)もあるのです。

昔は、季節の分かれ目には邪気が入りやすいと考えられており、さまざまな邪気祓い行事が行われてきました。節分の豆まきも邪気祓いの行事です。本年は、新型コロナの感染防止のため、お寺や神社で豆まきを取りやめるところが多く、新型コロナウイルス終息を祈願した大豆や落花生を参拝者に小分けにして授けるところも出ているとのことです。



大きな声で叫ばませんが、「福は内 鬼は外 コロナ終息!」。
はやく感染が落ち着きますように・・・。

今後のPTA活動

前号で、感染対策徹底のための学習活動や行事についてお知らせしました。PTA活動についても以下のようにお願い致します。

- <本部役員会> 第4回本部役員会・中止、第5回本部役員会(引継会)・実施予定
本年度の反省をいかし、次年度に向けて始動します。本年度の本部役員の皆様また学級役員の皆様には、コロナ禍での制限ばかりで、各部の活動が保証できず、心苦しく感じています。次年度もしばらくは同様の対応になるかと思ひます。
- <年度末保護者会等> 本日付で別紙に詳細をまとめ、配布しました。ご覧下さい。

あいさつ運動



1月18日から22日まで、運営委員会のみなさんが、朝の昇降口であいさつ運動を行いました。今回は手話にふれるきっかけになればと、「おはよう」を手指を使って表現することにチャレンジしました。

言うまでもなく、「あいさつ」はとても大切なものです。まさにコミュニケーションの基本。「あいさつ」から全てが始まるといっても過言ではありません。心を開いてあいさつすれば、相手の心の扉も開きます。学校内の友だちや先生へのあいさつは勿論のこと、道端ですれ違った地域の方に朗らかにあいさつし、様々な関わり合いに感謝の気持ちを持てる、そんな「干潟っ子」であってほしいと思います。是非ご家庭でも話題にいただき、家庭での「あいさつ運動」を実践していただければと思います。

6年生が築いた伝統を引き継ぐ

12月。2学期末終業式が終わった後、体育館に残る5、6年生の姿がありました。これまで、様々な全校規模の活動を行う際、いつも快く準備等を引き受けてくれた6年生に代わって、5年生が引き継ぐということになりました。5年生が「いままでありがとうございました。」と伝えると、「がんばってください。」と励ます6年生。両学年のやりとりに心がほっこりしました。

先日の朝、イス並べをお願いすると、登校した5年生が快く引き受け、あっという間に準備が終わりました。一生懸命働く5年生がひとときわ頼もしく感じました。

今まで手本を見せてくれた6年生のおかげです。目に見える活動のみならず、「最高学



年になる」という気概が引き継がれていきます。

春はもうすぐです。